







学位論文審査の結果及び最終試験の結果の要旨

学位申請者氏名	上浦 環		
学位論文名	歯科衛生士の就業継続意思に影響する要因 —外・内的キャリアとの関連性— Factors involved in intension to continue employment in dental hygienist : Relationship with external carrier / internal carrier		
論文審査委員	主査：	松本歯科大学 教授	葩島 弘之 
	副査：	松本歯科大学 教授	安西 正明 
	副査：	松本歯科大学 准教授	正村 正仁 
	副査：		
	副査：		
	副査：		
最終試験	実施年月日	令和 2 年	1 月 9 日
	試験方法	口答	
学位論文の要旨			
<p>本論文は、歯科衛生士の離職防止を目的に、内的キャリアとキャリア・アンカー、内的キャリアと職場の実情、および外的キャリアについて歯科衛生士の就業継続意思と関連する要因を多変量解析により明らかにすることを目的に行った研究である。</p> <p>対象は、長野県内の病院・歯科医院に就業中の歯科衛生士、計 106 名であった。調査は、無記名自記式質問紙法で、内容は、「就業継続意思、外的キャリア、Edgar.H.Schein のキャリア・アンカーセルフ・アセスメントによる内的キャリアとキャリア・アンカー、内的キャリアが現在の働き方や職場で当てはまるか」とした。解析は就業継続意思の有無と、外的キャリア、内的キャリア、キャリア・アンカー、内的キャリアと職場の実情との一致の関連性を、χ^2 検定あるいは Fisher の直接確率計算を用いて分析したのち、就業継続意思と有意な関連性が認められた項目間の独立性を検討した (多重共線性)。独立性が認められたものを独立変数とし、就業継続意思を従属変数としてロジスティック回帰分析を行っている。</p> <p>結果として、就業継続意思に関連がある要因は「自分自身、家族、仕事、それぞれのニーズが同時に満たされている」ことであることを明らかとし、3 つのニーズをバランスよく調和させて実現することが必要な要件であり、そのうちの 1 つが欠落していても就業継続にはならないこと、すなわち、仕事と生活のバランスが継続的な雇用にとって重要であることを明確にしている。</p>			
学位論文審査結果の要旨			
<p>本論文は明確性、論理性、実証性、独自性、表現力など、すべて適切に構成されていた。また、学位論文として、目的、方法、結果、結論がバランスよく構成されており、研究の発展性・将来性についても明確に記載されていた。</p> <p>以上より、本論文内容は博士 (歯学) としての学位論文にふさわしい内容であると評価された。</p>			

(様式第 13 号)

最終試験結果の要旨

最終試験において以下の質問があり、それらに対し明確な回答が得られた。

- ・本研究における対象者の選定・サンプルスケールについて
- ・統計解析に使用される用語（外国語を含む）の意味について
- ・統計解析の手法について
- ・本研究結果の社会に与える影響について

本学位論文は、博士課程修了にふさわしい内容を有するとともに、申請者は専門分野の知識および研究手法を十分に有していた。

最終試験における以上の内容は博士課程修了に資する内容であったと判断された。

判 定 結 果

合格

備考

- 1 学位論文名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を（ ）を付して記入すること。
- 2 学位論文名が日本語で表示されている場合には、英語訳を（ ）を付して記入すること。
- 3 論文審査委員名の前に、所属機関・職名を記入すること。